

第五回 桜町再開発事業における新たな集客施設整備検討委員会 議事概要

【日時】 平成25年11月25日(月) 14:00~16:00

【場所】 熊本市議会 議会棟2階 予算決算委員会室

【出席委員】 全20名のうち16名出席 ※以下、敬称略

(委員長)	熊本大学	理事・副学長	両角光男
	熊本学園大学商学部商学科	教授	宇野史郎
	株式会社アドコム(熊本県広告業協会会員)	常務取締役	後藤亮一
	一般財団法人熊本国際観光コンベンション協会	専務理事	齊藤寛
	在熊マスコミ社長会(株式会社熊本放送 取締役総務局長)		杉光定則
	熊本市中心商店街等連合協議会	会長	武本純一
	熊本大学工学部建築学科	准教授	田中智之
	熊本経済同友会	事務局長	藤好清隆
	熊本商工会議所	専務理事	松山正明
	熊本城下のまちづくり協議会 桜町地区会議	会長	吉丸良治
	熊本市議会	市議	藤岡照代
	熊本市議会	市議	津田征士郎
	熊本市議会	市議	下川寛
	熊本市議会	市議	田辺正信
	熊本市議会	市議	江藤正行
	熊本市役所	副市長	牧慎太郎
※欠席委員	熊本県立大学環境共生部居住環境学科	准教授	西英子
	熊本大学	理事・副学長	原田信志
	一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会	副会長	淵田俊郎
	桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント委員会会長 (熊本市都市政策研究所所長)		蓑茂壽太郎

【議事概要】

1. 開会

2. 基本計画（素案）について

（委員長） これより第五回の委員会を開会する。本日は、最終回ということになる。これまでの四回の委員会でご検討いただいた施設コンセプトや施設配置などを含め、基本計画の素案としてお手元の資料にまとめている。出来るだけ判り易くということで、何回か調整をしていただいた。本日は、基本計画の素案の内容について、ご審議いただきたいと思う。それでは事務局から説明をお願いしたい。

（事務局） （説明）

（委員長） この委員会で検討する前段階からの検討の流れ、あるいはこの委員会では与条件としていただいた施設の機能、規模についても、まとめて1章、2章で説明をいただいた。主にこの委員会では、施設の基本計画ということで、建物について検討した。その内容については、3章でまとめた。あるいは、想定催事等の見込みについて検討したものは、4章でまとめた。また、管理運営方式については5章に説明があった。今回、報告書としてまとめたわけだが、この件について意見をいただきたい。特に、想定催事件数の見込みの説明があったが、その辺についても意見をいただきたい。

（委員） 前回の委員会の中で、メインホールから会議室への移動動線の話があり、検討するということがあったが、図面上では直通エスカレーターのままだと思うが、その辺りの検討結果はどうなったか。

（事務局） 資料の25ページをご覧いただきたい。図面の中ほどの小さい青丸の箇所にエスカレーターを1箇所配置し、会議室へ行く動線を確保している。

（委員長） 25ページの図面のホールの右側の方に、丸で囲んだものが3つあるが、上の大きな丸がメインアクセスということで、2階から上がってくる。その下に小さな○でDOWNと描かれてあるが、これが会議室のフロアに直結するエスカレーターということだ。

（委員） 2点尋ねたい。1点目は、産文会館に絡んで、そのホールの代替機能をこの中で考えるのか、この付近の別の場所で考えることになったのか教えていただきたい。それを整理しておきたい。もう1点は、（参考資料）1ページで説明があった需要予測等の中で、メインホールの利用率、それから新規MICE施設の会議室利用率は、それぞれ80%で算定してある。データがある他施設の平均より超えた数字が出してある。それともう一つは、（参考資料）4ページの総会・大会の開催見込み件数で、説明の中で、「したい」と

という話があった。予測を出すときに、「やりたい」という期待値を込めて出すのはいかがなものか。以前も別の場で申し上げたが、これだけのデータがあった、これだけの見込みがあるというところから、さらに厳格に、減じて出すのが安全策ではないかと申し上げたことがある。期待値を外したり、他のところの平均値を超えるような形ではない、本当にガチガチの予測で出した場合はどうなるのか。これが変わってくると、その後の数字が全部変わってくると思うが、その辺りはどうか。

(事務局) 産業文化会館の機能分担、ホール機能について、産業文化会館で行われてきた会議、集会、コンベンションについては、新たな MICE 施設でカバーしていきたいと考えている。他の催事については、現状の市民会館での利用を軽減することによって、対応していきたいと考えている。その中で、区分利用や利用料金設定も合わせて検討していきながら、それぞれ産文機能の代替をしていきたい。2 点目について、今のところ他の施設よりも若干目標値も加味した数字になっているところであるが、あくまで 80% を目指すところでの催事設定をしているので、平均値で考えた場合は、どうしても下がる形になるので、もう一度分析する必要があると考えている。

(委員) 1 点目の産文会館の機能分担、機能補完については、言っておられる意味と以前の議論で出た機能分担の意味とは若干違う。700 名という規模のホールの使い易さという意味の補完ではなかったか。ただ、必ずしもこの施設の中で補完するのか、それとも他の近辺の、新たに補完するのかということの議論が上手く深まっていないという気がする。2 点目に尋ねた点について、再度分析する必要があるという結論だったが、需要予測を期待値だけでやってしまっただけでは危険性が高い。期待値を入れたものを示されて、これを良しとしても、期待値が無いときの利用見込みがないと、これから先の議論になって、この会議の議論と性格を異にするかと思うが、是非これから先の議論をするときは、安全圏の需要予測というものをを出していただきたい。

(事務局) 1 点目について回答するが、現時点では新たに産文の 700 人のホールを別の場所にと計画は無い。当然、先ほど申したように会議などの利用であれば、新しい MICE 施設を活用していただき、例えばコンサートや演劇で利用されていた分については、市民会館の利用を軽減すること、もしくは、東 A (森都心プラザホール) とかその他の公共施設で補完する方向で考えているところ。

(委員) 産文の機能補完については、この委員会の主要要件では無いので、別の場で議論させていただきたいと思うが、議会の決議が入っている。それが入

っていることで、今の様な話だと、議会の決議は何なのかということにしか思えてこない。この委員会の場ではないので、別の場で議論させていただきたい。

(委員長) それでは、そのような形でお願いしたい。需要予測については、よくあるのは、積極的な予測と、それから安全を見た予測とか、少し幅を持たせるのもよくやるやり方だと思う。委員の指摘のあった安全を見た数と、若干期待を込めた数と、少し幅を持った表現をしていただき、その中でコスト、ベネフィットの分析値も 2 通り出てくるというやり方もあると思う。時間的な問題でこの報告の範囲で出来るのかどうかは何とも言えないが、今後の扱いとしての指摘だったので、検討していただきたい。

(委員) 基本構想の手伝いをさせていただいた者からすると、今回の需要予測については、だいたい基本構想に近い数字となっている。そういう面では、具体的な基本計画を策定する流れの中で、具体化していった数字と構想との数字がほぼ近かったのもので、私自身は安心しているところ。

(委員長) 現段階で、構想といった建物がはっきりしていない段階での予想と変わらない形で来ているという話だった。

(委員) 違う点でよろしいか。確認だが、この会議で何回か議題に出た 33 ページの国際会議ホール兼多目的ホールの件だが、同時通訳ブースが入っていて、断面イメージが描いてあるが、確か前回の委員会では、このフロアは天井高が 6m だった。その 6m の中に断面イメージのような中二階があって、同時通訳ブースがあるという理解でよいのか。

(事務局) この断面通りにはならないが、廊下は天井高が低くて済むので、その辺りで調整しながら天井高を確保していきたい。

(委員長) この断面図で見ていただいて、通訳ブースの天井と、国際会議ホール兼多目的ホールの天井が同じレベルで描いてある。これが、通訳ブースの方は少し上に上がると考えてよいのか。そういうことでクリアランスを取ると。今は廊下とブースが同じ天井高で描いてあるが、この辺は廊下の方を確保した上で、広いところよりは低くなるにしても、若干上にずれこんで、通訳ブースの天井は国際会議ホールの天井より若干高くすることで、機能は確保しつつ天井高を取れるという説明だったかと思うが、よろしいか。結論としては、十分天井高を取れるということ。

(委員) 26 ページの図面だが、これも委員会で出たが、大ホールのホワイエから屋上庭園を通過してシンボルプロムナードまで降りて行けるという動線が期待できる。それがアクセスという点でも、避難の点でも非常に価値があるという話だった。それをきちんと書いていただきたい。それと、2 章の方に言

及してよいか判らないが、出来るのであれば 18 ページの下の施設配置の方針について、シンボルプロムナードに MICE 施設から屋上庭園を通してアクセス出来るということ。更には、MICE 施設から新町・古町地区に矢印を付けて欲しい。今、街の回遊動線が西銀座通りの方からと、新市街の方から西に向かってきてはいるが、その矢印を受けて、シンボルプロムナード、コンコースと人の流れを感じる事が出来るが、出来ればその人の流れを新町・古町の方に投げるとするか、これはシンボルプロムナードのマネジメント委員会の方で、こういう考え方をしたいと考えているので、それを受けてこちらもこういう形になると良い。

(事務局) 今の 2 点については、今後消防法とかの関係もあるが、その辺りの部分も十分考慮していきながら期待していければと思う。18 ページについては、地区全体のマネジメント委員会の部分があるので、そのようにさせていただければと思う。

(委員長) 26 ページの屋上庭園の話はどうか。

(事務局) こちらの方にもその辺りを記載出来ればと思う。今のところ 26 ページの左の方に若干階段のようなものを描き込んではあるが、もう少し屋上庭園との連携も含めて描き込んでいきたい。

(委員長) 今は屋上庭園と描かれている。屋上庭園という構想は、この計画の外側の話だが、これは固まったとしてよいのか。

(都市建設局) 再開発担当部署だが、屋上庭園については、方向性は固まっているが、具体的な動線計画は出来ていないので、26 ページの中に入れ込むならば、シンボルプロムナードとの回遊性という文言での記載は可能かと思う。それと、新町・古町との連携については、15 ページをご覧頂くと、オンリーワンの創出の中で、新町・古町の連携について示させていただいているので、シンボルプロムナードの検討委員会の中でそこも含めて検討いただいている。

(委員長) 断面図の中にシンボルプロムナードとの連絡を示す赤い矢印を入れたのは、施設の説明図の位置が判りにくいだろうということで、一昨日ぐらいに急遽付けていただいた。どこが入口かというのが判って、それに対して各施設がどこにあるのか判るようにして欲しいということで急遽入れていただいた背景がある。全体のネットワーク、外部からのアクセスがどうなるか示そうとしたわけではなくて、位置づけとしてこうなっている。断面図の方はこれくらいで勘弁いただいて、街の中の回遊性は大事なテーマなので、いろいろな場所では是非入れていただければと思う。そういう意味でいくと、32 ページの国際会議ホール兼多目的ホールゾーンというのがあつ

て、メインエントランスが 2 階にあると思う。コンコースから入ってくるのははっきり描いてあって、バスターミナルからエレベーターで上がって来ますと描いてある。ここの右下に風除室があって、ここに外デッキからも入って来るといったようなことが確か委員からも繰り返し要望が出ていたかと思う。この位置づけも生きていると考えてよいか。2 階のエントランスへのアクセスというのは、1 階から上がってくるもの、コンコースで来るもの、それからいわゆる再開発の建物の南側のデッキからもアプローチが付いているということだと思うので、その辺りの表記も加えていただいた方がよい。その外デッキは再開発部分の商業施設との兼ね合いがあり、どこか 1 階から上がってくる意味でも大事なアプローチになる。

(委 員) 第 4 回の資料をもとに、関係各社・コンサートを主催する関係者に意見を聞いたところ、細かい部分で、楽屋の部分だが、29 ページで 4 階と 5 階の楽屋（控室）が描いてあるが、細かい部分で廊下はセンターではなく端にして欲しいとか、トイレも端にして欲しい。逆にラウンジは端ではなく中央に持ってきて、階段が描いてあるところに持ってきて欲しい。大楽屋だが、結局 2,300 のキャパでやるコンサートは、スタッフの人数が最低 30 人、40 人いる。そのスタッフ楽屋が上に来るのは、非常に辛い。ステージと同じ高さにして欲しい。大阪のプロモーターが言うには、大阪のグランキューブやフェスティバルキューブにしても、発注した側と設計側の間に専門的な舞台専門屋、音響照明の担当などプロデュースする方が入っていることがあった。今回に関しては、日建設計が設計していると思うが、その辺りのアドバイザーを入れる予定か。

(事 務 局) 今後の話にはなるが、あくまでこの計画の中では、動線については興行主の意見を聞きながらレイアウトを考えたとこ。今後、基本設計を進める中でその辺りの意見を聞きながら平面プランを進めて行きたい。

(委 員) ということは、この計画が具体的に進む中で、建設という決定事項で動いた中で、逆算すると、最終設計の見通しはいつ頃か。

(事 務 局) 再開発事業としては、27 年度に着工ということで進められているので、来年度設計業務が入ってくることになる。

(委 員 長) ご指摘の件については、次の段階で十分調整できる話だが、強いて言うと、真ん中にラウンジが欲しいという話で、今は階段がある。これがどうなるかについては、全体の関わりがあるので、この構成はこれから十分調整が出来る話だろう。いずれにしても、これで大きな枠組みが決まって、予算の問題も出て、こういう形で行こうということをして市議会で審議いただいてから実施設計に入っていくことになる。

- (委 員) 概算事業費が出ているが、先ほどの動線のところが気になる。屋上庭園にどう出るのか気になるが、設計の方はこれからなので今はよい。再開発事業の中で、MICE 施設の費用を支払うことで、保留床を取得すると書いてあるが、だいたいどれくらいの費用を想定しているのか確認したい。それは当然、289 億円の中に入っていないという理解で良いのか。それと、最後の方にある建築物価の上昇という部分に関して、変動というものはある程度想定されているのか。消費税が 8%から 10%に上がり、実際に人供費等も上がってくると思うが、その辺りは実際にどの程度か。
- (事 務 局) 事業費、取得費については、289 億円が全体事業費になるが、その中で単独事業もあるので、取得とすれば、269 億が取得金額になる。消費税については、10%で見込んでいる。他のオリンピックなどの変動については、今後そういったことが想定されるということで、明確な金額は判っていない状況。
- (委 員) 今後の運営についての話で、費用対効果の部分については前回の会議の中で話があったが、経済波及効果を算定して費用対効果を出し、効果として高いという話だった。これは料金設定に関係してくると思うが、ランニングコストが 5 億円を超えるということで、かなり維持費がかかることになる。これは今後増加していく可能性があると思うが、こういった施設は単年度の収支としては赤字になると思う。ただ、赤字であっても費用対効果がある、経済波及効果があるということで実施されていくことになると思うが、毎年の収支を少し考えていかないと、維持管理費が上がっていけば、どんどん赤字幅が伸びていくことになる。料金設定はどれくらいの設定で考えていくのか。こういったエネルギーコスト、ランニングコストが上がっていく場合に、料金の改定など現時点で判っていれば教えて欲しい。
- (事 務 局) 料金設定については、今のところどういった料金にするのか、他都市の例、熊本市の既存施設の料金設定を加味しながら設定することになるため、今のところ設定はしていない。どれくらいになるかも今のところ見込んでいない状況。
- (委 員) 料金がいくらになるのかではなく、考え方を知りたい。類似施設があるので、そこに影響が出てくる。考え方として料金設定をどうするのかの考え方を知りたい。
- (事 務 局) 考え方とすれば、他都市の例と合わせて、既存施設の料金設定、ホテル等でのバンケットで開催した場合の料金設定、いろいろな料金設定を見て、その中で設定していきたい。
- (委 員 長) 当然、電気代が上がっていくとか、他の施設も変わっていく。そういうも

のに合わせていくということによいか。出来るだけ市民に使いやすく配慮するなど、その辺りはどうか。

(事務局) 料金設定を下げることで誘致を積極的に進める方法もある。ただ、今のところ、どれくらいか考えていない段階だが、いろいろな例を参考に料金設定をさせていただきたい。

(委員長) いろいろな所とのバランスを考えて決めていくというご説明だった。

(委員) 他の委員も言われていたが、これから実際に実施設計等で工事等に進んでいくが、どうしても費用増加の傾向にある。その辺りの認識というか、ある種の心構えというか、せつかく立派な方向で固まった訳なので、その辺りの認識を持ちながら、議会等での話しも出てくると思う。その辺りを考えながら、確認していくことが大事ではないだろうか。

(委員長) 289億という一つの予算の数字がはじかれた。今まで基本構想から始まって、こういうホールを造りたいという思いを整理し、この委員会では出来るだけコンパクトにまとめたいということで、結果的には多目的ホールと国際会議ホールを一つのスペースに併せるといったことでコンパクトにした。あるいは、今のところ催事件数の計算には入っていない部分かと思うが、2階のホワイエなども有効に活用できる形で、新たな用途を発掘出来ないかという思いで今の最終案に来ている。これから市議会等で予算面も含めて議論いただくことになるが、今までの経緯というものは尊重していただきたい。その上で市の経営ということもあると思う。

(委員) 施設の方向性としての考えた方だが、その中に中心市街地の回遊性を更に高めるという表現があるが、交通センターの建設ということになると、非常に人が集まり易い。逆に言うと、非常に帰り易い。回遊性という意味で、もう一つ具体的に何か施策を打ち出さないと、回遊性にはつながらないと危惧している。もう一つは、他の委員からも指摘があったが、プロムナードを造って、MICE との連動性、例えば熊本独自の城郭が見えるプロムナードと連携したパーティーやコンベンション、一体化した MICE としての打ち出し方が出来ると、より全国的に魅力のある施設になっていくかと思う。間に合うかどうかは別にして、そういう考え方が基本計画の中にもう少しあると良いと思う。

(委員) 観光とコンベンションを推進している立場から見ると、概算数字なので、どうにでも出来るかと思うが、数字の根拠を見ていくと、全国で開催した状況がどうだとかという点が多い。熊本の実績を基本にした考え方が出てこなかった気がする。コンベンション協会で把握している数字は、270件程度の昨年度の実績。そのうちスポーツコンベンションが 130 件。これ

は MICE 施設を使わない。実質的には 140 件。という形が MICE として使われている形だろう。そうすると、実質的に 140 件のうち、80 件を MICE で賄うという計画をされている。残りの 60 件程度が既存のホテル関係、今やっているところで継続してやるという見込みをされて、この数字を挙げているのか。そうなった時に、民間の 140 件の半分以下が公共の方に流れにくるということで、民間に対する圧迫が大きいという気がする。その辺の想定の方を全国の開催状況だけではなく、熊本での実績を基に一つ挙げていた方がよいのでは。

(事務局) その前に、先ほどの委員の質問に答えるが、回遊性については、MICE 施設だけで完結するものではない。それ以外に魅力溢れるものがないと、回遊性につながっていかない。それについては、熊本城と一体となったシンボルプロムナードと併せ、3 モールをどのように回遊させるのかが課題になってくる。熊本の魅力作りが必要になってくる。その中で一つの核として MICE 施設がある。それとシンボルプロムナードとの連動性について、単体ではなく、コンベンションであれば屋外でのレセプションや展示についても可能かと考えている。そういったところで他の都市に無いような魅力が出せればと考えている。それから、他都市での施設の利用状況を見ながら全国で開催されるものを少しでも多く熊本で開催できるようにしていきたい。現状の熊本のコンベンションとしては、核となる施設が無いなかで、コンベンション協会が中心となり誘致をされてきたが、大規模なものは施設がないことから誘致が難しいところがあった。そういったものが熊本に施設が出来ることで、より多く開催出来ることでの見込みを出したところ。もう一つ、現状を踏まえての分析のあり方についても、現状を見て、新規施設が出来ることでもう少し検証させていただきたい。

(都市建設局) シンボルプロムナードの整備について、回遊性という観点から、他の委員が言われるように、バスの利便性が非常に良いところなので、バスターミナルしかないのであれば、回遊というよりもバスに乗って帰るパターンが多いと思うが、再開発一体ということで、商業施設とも連動するというか、一体のものになるので、商業機能の部分にも足を運んでいただく。更にはコンコースという形で、これはバスセンターとの利便性だけでなく、シンボルプロムナードへの利便性を確保するために、2 階にメインのコンコースを設けた。また、屋上庭園からも、動線はまだ決まっていないが、シンボルプロムナードへのアクセスを確保する。アクセスを確保したシンボルプロムナードでは、年間を通じて何らかのイベントだったり、賑わいのアクティビティが行われている空間にしたい。更には、熊本城が眺望できるビ

ューポイントもシンボルプロムナードには確保したいと考えている。少なくともそこまで来ていただいて、更には中心市街地、西銀座や新市街に足を運んでいただくというような回遊性の確保に努めていきたい。

(委員長) 2つの質問を一度に受けて申し訳ないが、回遊性ということについては、屋上庭園といったものがどうなってくるのか、大きな可能性を持っていると思う。その上で考えると、後は運用の問題のような気がする。今回の施設を利用する人、市民にとってはバスというものは、バスで来てバスで帰るというのが多いと思うが、今回の施設は、外から人をまず呼び込むことが大きな役割になっていて、その方たちはすぐに帰るという性格でもないと思うと、ご説明があったように周辺へ十分に出て行く可能性はある。いわゆる商業であり、買い物であり、ホテルであり、そこから出て行くと思う。むしろ運用の問題を考えて、本来都心の回遊をいかに活性化するかということは、熊本市でもずっと取り組んでいるテーマでもあり、そのための西の核が出来るということなので、是非その辺を地域の皆様と一緒にやって運用方法を考えていくということで検討していただきたい。後は、需要推計というか、どれだけの催事がということで、施設が無いから呼べていないというものをどうやって見つけるか、推計するかということで苦労されていたかと思う。現状ではもっとあるはずだしということもあると思うが、コンベンション協会で把握している学会等は、大学で開催されているものもかなり入っているのではないかな。実際は大学で開催するものもものすごい人数を集めている。これは小さな部屋がたくさん必要だということで、大学で行われているが、最近ほどの学会も、市民、開催地における学会としての貢献として、都心部で市民向けのイベントを開くということも常識になってきている。今、この推定に入っていない部分でもある程度出てくるのではないかな。これは期待の部分ではあるが。

(委員) 本日はこのように基本計画の策定に参加させていただいて、私たち議会で、平成5年からコンベンション構想というものは要望して来て、20年かかっている。これは早く決めて、スピード感のある施策に、実行性のあるものにしていただきたいと要望している。心配をするのは、289億、更にかかってくるであろうということで、高額な点については、市民に対して情報発信、理解していただかないといけない。イニシャルコスト、ランニングコストを見ながら、施設をいかに利用していくか。運用側だけではなく、やはり皆で力を合わせながら熊本市を盛り上げていかなければ、厳しいのではないかな。そして、一つ心配するのは、これから少子高齢化社会になっていく。人口減少もあるかと思うが、3,000名の広いところが欲しいと思っ

ていたが、人口減少社会になった時に危惧する部分もあるが、2,000名でも十分というふうな構造が出来ているので、2,000名で出来るだけでも開催をし、皆で頑張っていかななくてはならない。

(委員長) 力強いメッセージをいただきました。

(委員) 管理運営方針と、先ほどの費用の部分を見ると、赤字で運用するという部分が見えている。これが指定管理になった場合に、指定管理を受けるところが、逆に言えば MICE 施設という形で立ち上げるのであれば、この基本方針を含めた部分で、シンボルプロムナードを含めた全体地域での売り込みをしないと、指定管理をただで、いろんな催事なり、アプローチをするのは難しい。MICE 誘致推進機構が別にあるが、誘致する側の結束がないと、MICE 施設が成功するかどうかわからない。この部分は、トップセールスも含めた街全体で政令市熊本を売り出すという形がないと、指定管理というだけでは非常に厳しい運営になる。逆に、指定管理者にそのところの責を負わせるということはあるとはならない。最後に経験者として、そこは今後の運営をする時の方針で出してほしい。

(委員) MICE の事業費については、この検討委員会の案を市長の方にいただき、この案自体、市の財政当局が入って検討したわけではないので、今後事業費については市の財政当局を含めてさらに精査していきたい。

(委員長) 現状としては、基本構想を踏まえて、これを満足する出来る限りコンパクトでなおかつ魅力のある施設にしようということで、この委員会でもまとめてきた。出来るだけコンパクトで、なおかつ機能は必要なものを満たす。他都市と比べて魅力あるものにしたいということで、それなりに出来たかと思う。結果として 289 億という数字が出ている。オリンピックを控えて更に上がっていくこともあるかもしれない。不確定要因もあるかと思う。その辺りは確かに財政の中で議論をいただくと思う。ここでの趣旨、基本計画にまとめられたものが出来るだけ生かされるようお願いしたい。それがこの委員会の立場かと思う。是非その辺りは慎重な議論をいただきたい。また、冒頭あったように、この構想自体が、くまもと都市戦略会議という行政と経済界、大学という学会を呼ぶ側も一緒になって始まったという説明もあった。まさにオール熊本で運営していくことが大事だという発言もいただいた。他に意見がないようであれば、ご指摘いただいたものは、あまり期間が無いと思うが、出来るところは直して市長の方に報告をしたい。その辺りの調整については、私に御一任いただくということでよろしいだろうか。又、いくつかの項目については次のステップに積み残しということで、特にお金のところは大きいと思うが、その辺りは次の段階でお

願いたい。それでは、簡単な修正については、私の方で調整させていただくということによろしいだろうか。

(他 委 員) (はい)

(委 員 長) それでは、特になければ、これをもって、この委員会での審議を終えたいと思う。事務局から連絡事項等はあるか。

(事 務 局) (お礼の挨拶)

3. 閉会